

## 資料 2 - 7 大阪市内公共用水域における水質調査結果（平成27年度）

## 河川（38地点）

	調査地点	河川名	類型	pH	DO (mg/L)	BOD (mg/L)	COD (mg/L)	SS (mg/L)
1	小松橋	神崎川	B	7.0 ~ 7.8	9.0	1.0 (1.1)	3.8	9
2	吹田橋	"	B	7.2 ~ 7.6	8.1	1.2 (1.1)	-	12
3	新三国橋	"	B	7.1 ~ 8.2	7.9	1.4 (1.5)	5.3	7
4	神崎橋	"	B	7.3 ~ 7.7	8.2	1.5 (1.2)	6.1	5
5	千船橋	"	B	7.0 ~ 7.9	6.7	1.2 (1.2)	4.4	6
6	辰巳橋	" (左門殿川)	B	6.9 ~ 8.7	8.6	1.9 (1.7)	5.5	4
7	新京阪橋	安威川	B	6.9 ~ 8.4	8.6	1.8 (2.1)	5.4	10
8	菅原城北大橋	淀川	B	7.6 ~ 7.8	9.3	1.1 (1.0)	3.2	6
9	伝法大橋	"	C	7.6 ~ 8.4	9.0	2.6 (1.8)	4.0	6
10	今津橋	寝屋川	D	6.8 ~ 7.4	5.6	4.4 (5.3)	7.2	7
11	新喜多大橋	"	D	6.8 ~ 7.2	5.2	3.2 (4.2)	-	7
12	京橋	"	D	6.7 ~ 7.5	6.1	2.9 (3.7)	6.0	7
13	徳栄橋	古川	D	6.7 ~ 7.4	5.1	3.7 (4.6)	6.5	10
14	阪東小橋	第二寝屋川	D	6.8 ~ 7.3	6.3	2.9 (3.8)	-	4
15	下城見橋	"	D	6.7 ~ 7.4	5.0	3.0 (3.4)	6.9	5
16	中竹渚橋	平野川	D	7.0 ~ 7.4	8.0	4.5 (5.9)	-	5
17	安泰橋	"	D	7.0 ~ 7.4	11	3.1 (3.3)	-	4
18	睦橋	"	D	7.0 ~ 7.4	8.0	2.7 (2.9)	-	4
19	南弁天橋	"	D	6.7 ~ 7.3	4.4	2.8 (2.8)	7.7	6
20	城見橋	"	D	6.7 ~ 7.4	4.6	3.2 (4.2)	7.3	7
21	片一橋	平野川分水路	D	6.6 ~ 7.0	6.7	2.2 (2.5)	-	4
22	天王田大橋	"	D	6.6 ~ 7.1	5.3	3.7 (4.8)	7.3	4
23	赤川橋	城北川	B	7.3 ~ 7.6	8.9	0.7 (0.6)	-	6
24	毛馬橋	大川	B	7.2 ~ 8.0	9.4	0.8 (0.9)	-	11
25	桜宮橋	"	B	7.1 ~ 8.0	9.2	0.7 (0.8)	3.2	8
26	天神橋（右）	堂島川	B	6.9 ~ 7.6	7.4	1.3 (1.3)	4.2	6
27	天神橋（左）	土佐堀川	C	6.8 ~ 7.5	7.0	1.6 (2.0)	4.6	6
28	天保山渡	安治川	B	7.2 ~ 8.1	6.5	0.9 (1.0)	3.2	2
29	北港大橋 下流700m	正蓮寺川	B	7.2 ~ 7.8	5.7	1.6 (1.4)	4.8	4
30	春日出橋	六軒家川	B	7.3 ~ 8.9	7.3	0.9 (0.9)	3.8	5
31	本町橋	東横堀川	B	6.9 ~ 7.5	5.2	1.8 (1.9)	4.8	6
32	大黒橋	道頓堀川	B	7.0 ~ 7.4	4.9	1.0 (1.1)	4.6	7
33	甚兵衛渡	尻無川	B	6.9 ~ 7.7	5.3	1.1 (1.4)	4.2	3
34	千本松渡	木津川	B	7.0 ~ 7.8	5.2	1.3 (1.5)	4.5	3
35	船町渡	木津川運河	B	7.1 ~ 8.5	6.6	1.4 (1.6)	4.4	3
36	住之江大橋 下流1100m	住吉川	B	6.9 ~ 7.7	5.7	1.8 (2.0)	6.1	2
37	浅香新取水口	大和川	C	7.9 ~ 8.0	9.4	1.8 (2.1)	6.0	8
38	遠里小野橋	"	D	7.8 ~ 8.0	9.4	1.8 (2.2)	6.1	7

注1. 数値は年平均値です。（但し、pHは最小～最大を示しています。）

2. BOD欄の（ ）内の数値は、日間平均値の年間75%値を示しています。

3. 測定していない項目については「-」で示しています。

海 域 ( 9 地点 )

	調査地点	類型	pH	DO (mg/L)	COD (mg/L)	全窒素 (mg/L)	全磷 (mg/L)
39	神崎川河口中央	C	7.3~8.1	6.0	3.7 (4.0)	2.4	0.16
40	淀川河口中央	C	7.5~8.9	8.0	3.1 (3.3)	0.94	0.099
41	木津川河口中央	C	7.1~8.2	5.8	3.9 (4.5)	2.5	0.15
42	5 プイ跡	C	7.4~8.9	8.0	3.4 (3.5)	1.3	0.099
43	25 ドルフィン	C	7.5~8.8	7.6	3.4 (3.8)	1.3	0.10
44	北港沖 1,000m	C	7.6~9.0	7.9	3.0 (3.6)	0.78	0.065
45	大阪港関門外	C	7.7~8.7	7.5	3.0 (3.6)	0.64	0.058
46	南 港	C	7.4~8.6	6.2	3.5 (4.1)	1.5	0.099
47	大阪湾 C - 3	C	8.0~8.7	8.4	3.3 (3.4)	0.78	0.082

注 1 . 表中の数値は、表層における測定値です。

2 . 数値は年平均値です。(但し、pHは最小~最大を示しています。)

3 . COD欄の ( ) 内の数値は、日間平均値の年間75%値を示しています。

資料 2 - 8 大阪市内河川底質調査結果 (平成27年度)

(乾燥重量値)

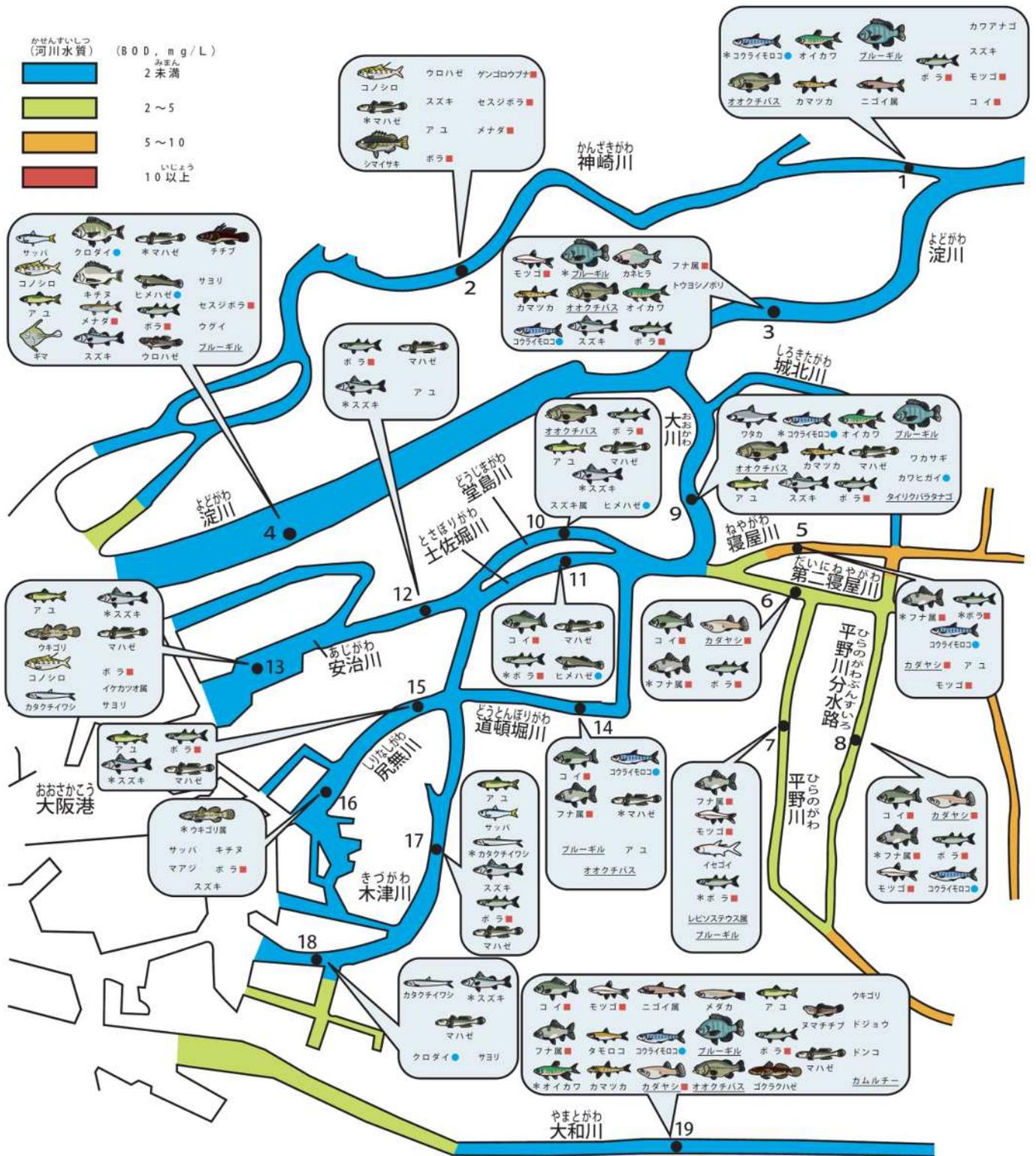
調査地点	河川名	含水率 (%)	pH	総水銀 (mg/kg)	アルキル水銀 (mg/kg)	P C B (mg/kg)
千船橋	神崎川	37	7.9	0.56	<0.01	0.18
大黒橋	道頓堀川	26	7.9	0.54	<0.01	0.25
天保山渡	安治川	61	8.1	0.57	<0.01	0.14
甚兵衛渡	尻無川	48	7.5	0.77	<0.01	0.29
千本松渡	木津川	57	7.9	1.4	<0.01	0.42

【試料採取:平成27年5月18日】

資料 2 - 9 市内河川魚類生息状況調査結果（平成23年度）

項 目	調 査 結 果
調査時期	春季調査 平成23年6月(5日間)      夏季調査 平成23年8月(5日間) 秋季調査 平成23年11月(5日間)      冬季調査 平成24年2月(5日間)
調査場所	大阪市内河川 19地点
調査結果の概要	<p>ア． 確認された魚種は47種で、前回調査(平成18年度調査、以下同じ。)と比べて8種増加しました。うち在来種については41種で、前回調査と比べて5種増加しました。また、これまでの調査の中で最多の確認種数となりました。</p> <p>イ． 確認種数が多かった地点は、大和川(21種)、淀川下流(17種)、大川(13種)でした。</p> <p>ウ． きれいな水質の指標種の確認地点数は、前回調査の9地点から11地点に増加しました。また、寝屋川、平野川分水路で、初めて、きれいな水質の指標種が確認されました。</p> <p>エ． 大阪府レッドデータブックにおいて絶滅危惧種として記載されているドジョウ(絶滅危惧類)、ウキゴリ(同類)が初めて確認され、ゴクラクハゼ(同類)、メダカ(同類)は前回に引き続き確認されました。</p> <p>オ． これまでの調査では、ボラ類やスズキなどの遊泳魚のみが採取されていた河口域で底生魚であるハゼ類が新たに確認されました。</p> <p>カ． 外来種については、オオクチバス(ブラックバス)が前回調査の4地点から6地点で、ブルーギルが前回調査の5地点から7地点で確認され、平成3年度の調査開始以降増加傾向にあり、生息域を広げています。</p>
河川ごとの特徴	<p>ア． 《神崎川》 上流域では、前回調査ではブルーギル、オオクチバス(ブラックバス)の外来種が最も多く確認されましたが、今回の調査では在来種であるコウライモロコが全体個体数の半数以上を占めて最も多くなりました。下流域では、マハゼ、コノシロなどの汽水性海水魚が確認されました。</p> <p>イ． 《淀川》 上流域での確認個体数上位は依然としてオオクチバス(ブラックバス)、ブルーギルでしたが、在来種であるモツゴ、コウライモロコ、オイカワなども多く確認され、回復傾向にあると考えられます。下流域では、マハゼ、ボラなどの汽水性海水魚が確認されました。</p> <p>ウ． 《寝屋川・第二寝屋川》 前回調査では、比較的汚濁に強い外来種であるカダヤシが多く確認されましたが、今回調査ではカダヤシが減少し、在来種であるフナ属やボラが多く確認されました。また、寝屋川では指標種であるコウライモロコが初めて確認されました。</p> <p>エ． 《平野川・平野川分水路》 平野川では、依然ボラ、フナ属などの比較的汚濁に強い種が多く確認されました。平野川分水路では、フナ属、コイ、モツゴなどの比較的汚濁に強い種に加え、指標種であるコウライモロコが初めて確認されました。</p> <p>オ． 《大阪市内河川》 大川ではコウライモロコ、マハゼなどが多く確認されましたが、過去4回の調査では確認されなかった外来種が複数季にわたって確認されました。道頓堀川では、マハゼ、フナ属、コイなどととも指標種であるコウライモロコが確認されています。安治川、尻無川、木津川など汽水域では、スズキ、カタクチイワシ、ボラなど汽水海水魚が多く確認されました。またマハゼなどの底生魚が、ほぼすべての地点で確認されました。</p> <p>カ． 《大和川》 前回と同様、豊かな魚類相を示し、全調査地点中最も多い21種が確認されました。その中には、指標種であるコウライモロコや大阪府内では絶滅危惧種に区分されているドジョウ、メダカ、ウキゴリ、ゴクラクハゼが含まれます。</p>

資料 2 - 10 市内河川の魚類の分布 (平成 23 年度)



- ・ 河川の BOD は平成 22 年度のデータを使用しました。
- ・ 各地点で確認された個体数が 2 個体以上のものはイラスト付き、1 個体のものは種名のみ表記しています。
- ・ 種名に引いたアンダーラインは、その種が外来種であることを示します。
- ・ (右側に) ● : きれいな水質の指標種を示します。
- ・ (右側に) ■ : 汚濁した水質でも生きられる種を示します。
- ・ (左側に) \* : 各地点において最も個体数が多かった種を示します。

資料2 - 11 下水道普及状況（平成27年度末）

処 理 面 積	190.52 km <sup>2</sup>
処理区域面積普及率 1	99.2 % (市陸地面積191.97 km <sup>2</sup> )
処理人口普及率 2	99.9 %
下水管渠延長	4,920 km
下水処理場	12 か所
抽水所	58 か所
下水処理能力	2,844 千m <sup>3</sup> /日

1 処理区域面積普及率 = 処理面積 / 市陸地面積

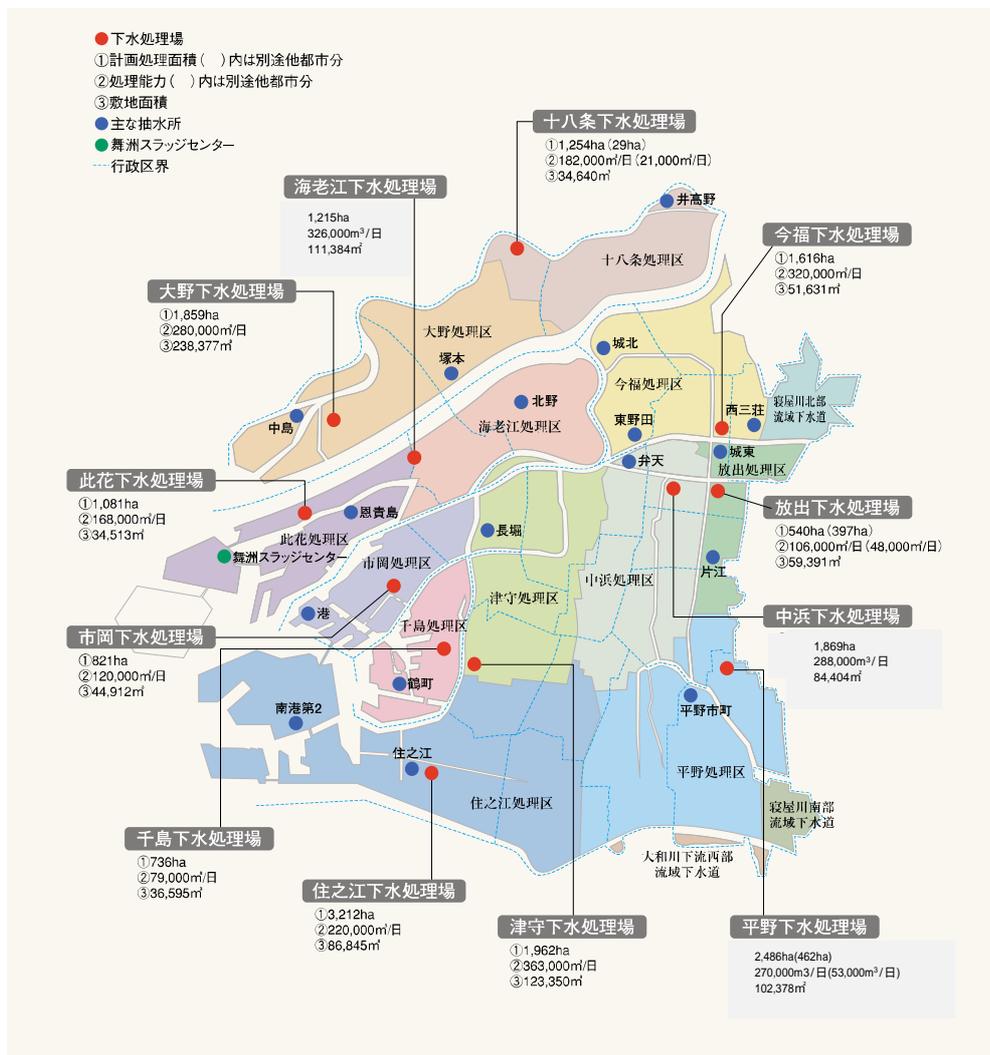
2 処理人口普及率 = 処理人口 (2,691,729人) / 総人口 (2,691,742人、平成27年速報値国調人口)

資料2 - 12 高度処理施設整備状況（平成27年度末）

高度処理施設	処 理 能 力
急速ろ過法等の導入	590.6千m <sup>3</sup> /日
嫌気好気法への改良	1,649.3千m <sup>3</sup> /日
担体利用窒素除去法の導入	15.8 千m <sup>3</sup> /日

資料2 - 13 下水処理区と下水処理場

市内は、12の下水処理区と3つの流域下水道の区域に分けられています。



資料 2 - 14 下水処理状況（平成 27 年度）

【水処理】

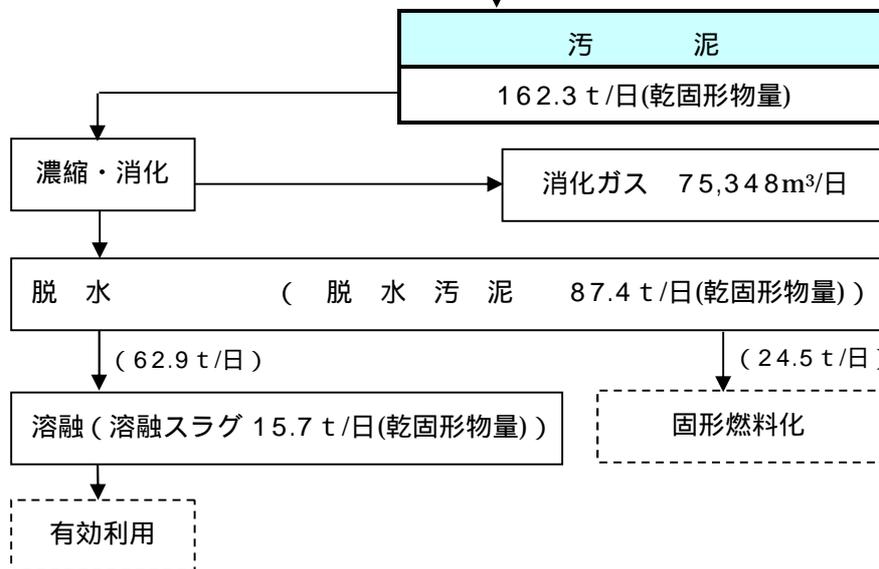
（二次処理水量 1,690,762m<sup>3</sup>/日）

流 入		
	水質(mg/L)	負荷量(t/日)
SS	100	169.1
BOD	130	219.8
COD	82	138.6
全窒素	26	44.0
全りん	3.1	5.2

放 流		
	水質(mg/L)	負荷量(t/日)
SS	4	6.8
BOD	4.0	6.8
COD	10	16.9
全窒素	11	18.6
全りん	0.4	0.7

水質は市内12下水処理場における年間平均水質の加重平均値を示す。

【汚泥処理】



資料 2 - 15 水域別・行政区別・法律条例適用事業場数（平成28年3月末）

水域	行政区	瀬戸内海環境保全特別措置法	水質汚濁防止法	大阪府生活環境の保全等に関する条例	計
神崎川	西淀川	2	17		19
	淀川	1	1		2
	東淀川		1		1
大阪市内河川	北		2		2
	福島		1		1
	此花	1	28		29
	港		2		2
	大正	5	4	2	11
	住之江		3		3
	西成		1	1	2
寝屋川	旭	1			1
	城東	1	3		4
	中央		1		1
	平野		1		1
大和川	平野		5		5
計		11	70	3	84

（注）1. 水域区分は、水質汚濁防止法第3条第3項の規定による排水基準を定める条例に基づきます。

2. 大阪市内 12 下水処理場を含みます。

資料2 - 16 立入指導等の状況(平成27年度)

	公共用水域へ 排水する事業場	公共下水道へ 排水する事業場
立入事業場件数	130	2,170
水質基準超過件数	1	258
排水の一時停止命令	0	0
改善命令	0	0
改善勧告	0	2
その他指示	1	256

(注)大阪市内12下水処理場を含みます。

資料2 - 17 水質関係 法律・条例届出受理件数(平成27年度)

水域	法律・条例 瀨戸内海環境保全 特別措置法	水質汚濁防止法	大阪府生活環境の 保全等に関する条例
淀川	0	0	0
神崎川上流	2	5	0
神崎川下流	0	6	0
寝屋川	0	4	0
大阪市内河川	7	23	0
大和川上流	0	0	0
合計	9	38	0

(注)大阪市内12下水処理場を含みます。

資料2 - 18 特定事業場・除害施設必要事業場数(平成28年3月末)

行政区	特定事業場数	除害施設必要事業場数 (非特定事業場を含む)
北	142	146
東淀川	101	78
淀川	153	146
福島	70	56
西淀川	151	197
此花	91	107
旭	59	35
都島	58	46
城東	108	93
鶴見	77	73
東成	118	108
生野	172	122
中央	91	87
天王寺	59	45
浪速	59	42
西	60	60
大正	77	68
港	83	53
住吉	73	30
住之江	112	133
西成	89	69
阿倍野	63	33
東住吉	108	62
平野	191	154
合計	2,365	2,043

(注)公共用水域へ排水する事業場を含みません。